

飼育品種は名古屋種最も多くレグホーンこれに次ぐ。

一、家畜数調

年次	頭数	牛		馬	
		頭数	乳格	頭数	頭数
昭和二年	牝牡 二四	四七 ^五	三、二九〇 ^四	二六	二八〇
全三年	牝牡 一五二	四六	二、七六〇	二五	三五七
全四年	牝牡 一三一	四七	二、五八五	二二	三七七
全五年	牝牡 一三三	四九	二、四五〇	一二	四三九
全六年	牝牡 一三四	四六	二、三〇〇	一一	五七五

二、養雞羽數及戸數調

昭和七年八月

年次	十羽以上	五十羽以上	百羽以上	羽數合計	價格
大正十二年	三七七	一七	二六	三〇、二七〇	五二、〇八七 ^四

第二節 工業

本村は往昔より農業及養蠶業を本業とする村で、古くから農業によく勉勵し又蠶を飼つて副業となし、一村經濟の基をなして來た。かくの如く古より現今に至る迄農業を主業としたから随つて工業の發達は微々たるものであつた。

年次	全十三年	全十四年	昭和元年	全二年	全三年	全四年	全五年	全六年	全七年
頭数	三六九	三七〇	四五〇	二七五	二九三	三三八	四一八	四三九	四五七
價格	二二	二一	一八	六二	六八	一三九	一四一	一六〇	一五六
戸數	二八	三〇	一七	四九	五三	一八	二五	四八	四八
合計	三一、二九七	三二、〇〇〇	四二、二〇〇	三九、三七六	四四、五六四	三四、九六九	三五、九三〇	二三、〇六七	二二、九〇五
價格	四九、五七四	五二、九〇〇	一一七、二四〇	五一、四六七	一〇〇、六七三	三九、九五〇	三七、〇五四	二五、二九五	二三、〇八四

往時は農家で棉麻等を栽培し之より自家用衣類を作る迄のすべての工業操作をしたものであつた。併しそれも時代の進運につれて次第に衰へ今では殆んどその跡をたち只農閑期を利用して糸を購ひ、自家用布を織るを見受ける程度となつた。一般家庭に於ける工業は以上の如く幼稚であつたが、一方には副業的に或は專業的に工業者として工業に従事してゐたものもあつた。左に之を細別して示せば

第一項 織物

本村の織物業は明治の終頃迄は前述の如く自家用布を織るの程度であつたが、その後漸次機業家が現はれた。

乃ち明治四十年頃萩島に前田織布工場が創設せられた。當時は出機と稱して農家に賃織を依頼して經營したものである。その後年を重ねるにつれて次第に事業を擴張し、大正七、八年頃最も盛大でその頃の出機總數九百軒にも及んだのである。随つて大正の終り頃には機業家が次第に現はれ綿甲斐絹。綿セル等を織り成績も相當であつたが、其後經濟界の不況に伴ひ機業界も現在では餘り振はぬ状態である。左に現在操業せる工場を示せば

工場名	事業	織機數	創立年月	所在地	事業主
前田織布工場	人絹チリメン	二四	大正十五年四月	大口村大字小口	前田治作
水野織布工場	人絹カベ	八	昭和元年九月	大口村大字河北	水野清

織物生産高

販賣先	人絹チリメン	南洋方面	人絹カベ	内地向	
舟橋織布工場	人絹カベ	一六	大正十三年九月	大口村大字河北	舟橋信夫
鶴飼織布工場	人絹カベ	一〇	大正十五年四月	大口村大字河北	鶴飼與三郎

年次	綿織物	絹織物
昭和元年	三四、八六二 ^円	一七、九五二 ^円
昭和二年	二二、二七三	二二、七〇八
昭和三年	二六、〇三四	一七、八九三
昭和四年	一六、〇一〇	二一、五三六
昭和五年	二九、八五一	一五、三八四
昭和六年	一七、四四四	二五、〇六七

第二項 製糸

本村は昔から養蠶業の盛な土地であるから、随つて小規模な製糸は所々に行はれてゐた。然し大規模な製糸工場の出來たのは極く最近であつて従外は只舊式足踏機械を數臺備付けて操業してゐたものが多かつた。けれども之等の製糸も次第に時代の進運と共にその影をひそめ大正元年の頃には全くその跡を絶つてしまつた。大口製糸は大正九年に創設せられ當時は従業員二八〇人二〇〇釜を使用して年々七〇〇捆の生糸を産出したが、其後經濟界の不況に伴ひ短操のして百三十二釜年々凡そ三百捆の生糸を産出してゐた。次にそれを表示すれば

工場名	資本金	産額	従業員	事業所	所在地	事業主
大口製絲株式會社	百萬圓	生絲 三百捆	九〇人	生糸製造	大口村大字余野字西浦 一四〇地	江口季一郎

本會社も今は生糸業界の不振につれて操業能力を失ひ遂に解散の悲運に遭遇した。

第三項 醸造業 其他

本村内に於ける醸造業は主として清酒醸造である。古は本村内各戸毎に多く自家用の醬油を醸造したものであるが其後久しく中絶し最近に至つて再び農會或は各種團體の奨励で之を醸造する様になつた。

清酒醸造では仙田晃安政の頃から明治の初まで河北仙田屋明治十八年迄、江口又左工門明治二十年頃迄、何れも經營したが後廢業した。尙近藤吉兵衛なる人父春吉の企業により明治廿年頃迄油屋を經營してゐた。

味噌醬油の製造では酒井佐市明治三十年より明治四十四年間營業したが今は止めて清酒の醸造をなしてゐる。現在の清酒醸造は前記酒井酒造場の外伊藤、松岡、宮地の三酒造場があつて、村内で需要する酒は殆んど之等四酒造場によつて供給されてゐる。左に之を表示すれば

工場名	事業	創立	所在地	業主	年産額
伊藤酒造場	清酒、味淋、焼酎	明治卅一年十一月上旬	大字小口乙四五〇	伊藤 敏治	一、四〇〇石
酒井酒造場	全	明治卅四年七月廿七日	大字小口字城屋敷九〇	酒井 佐市	四〇〇
松岡酒造場	清酒	大正六年十一月二十日	大字豊田字寺東一ノ三	松岡 源七	一五〇
宮地酒造場	全	大正五年十月廿五日	大字大屋敷三番戸	宮地 鶴吉	四〇〇

其他

會社名	事業	創立	所在地	業主
大口製麥合名會社	改良麥製造	大正九年九月	大字小口字天神前五五	西村 一郎
國産合資會社	絹織物製造(休)	明治廿九年五月	大字小口乙三〇二	波邊 元貴
愛知農具合資會社	農具製造	昭和五年五月	大字小口字上池田一七	杉浦 久次郎 酒井 佐市